



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

平成30年 全期の生産高及び対前年比較表

(単位：百万円)

種 類 別	平成30年 (1月～12月)	平成29年 (1月～12月)	増 減 率 (%)
水道用弁	9,184	9,220	-0.4%
産業用弁	13,944	12,118	15.1%
船用弁	3,552	3,301	7.6%
鋳物素材	861	738	16.7%
合 計	27,541	25,377	8.5%

平成30年 下半期の生産高及び対前年比較表

(単位：百万円)

種 類 別	平成30年 (7月～12月)	平成29年 (7月～12月)	増 減 率 (%)
水道用弁	5,308	5,324	-0.3%
産業用弁	6,677	6,238	7.0%
船用弁	2,179	1,675	30.1%
鋳物素材	464	391	18.5%
合 計	14,627	13,628	7.3%

平成30年 上半期の生産高及び対前年比較表

(単位：百万円)

種 類 別	平成30年 (1月～6月)	平成29年 (1月～6月)	増 減 率 (%)
水道用弁	3,877	3,896	-0.5%
産業用弁	7,267	5,880	23.6%
船用弁	1,372	1,626	-15.6%
鋳物素材	398	347	14.6%
合 計	12,914	11,749	9.9%

平成30年(1月～12月)バルブ生産高調査結果

対前年比 8.5%増の 275 億円

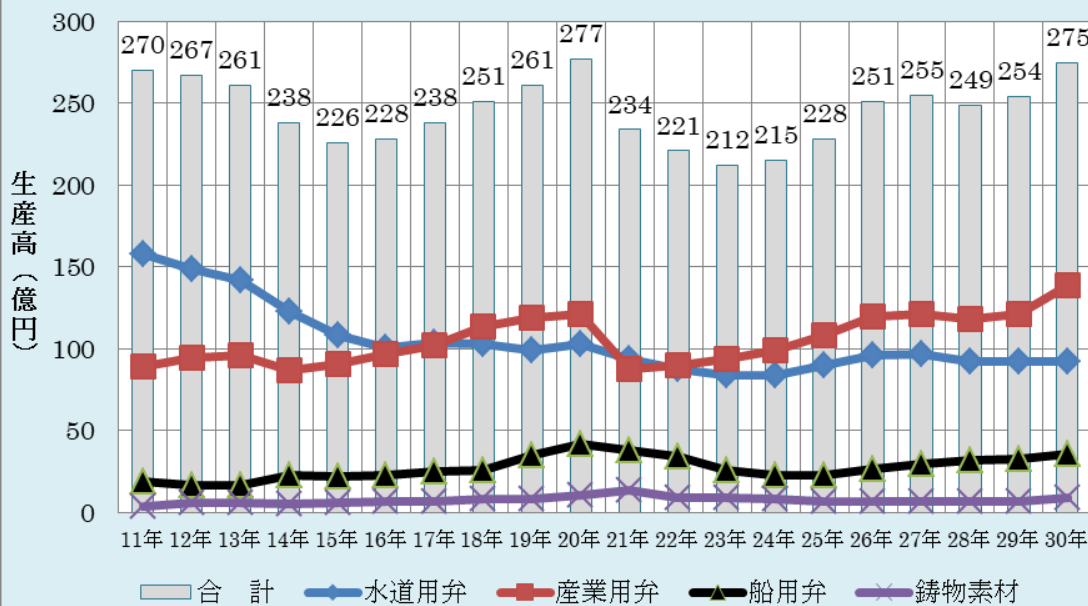
平成30年下期(7月～12月)のバルブ生産高調査(組合員22社)の結果がまとまり、同年下期の生産高は前年同期比7.7%増(プラス9億9,000万円)の146億2,700万円となった。業種別に見ると、水道用弁が同期比0.3%減の53億8,000万円、産業用弁が7.0%増の66億7,700万円、船用弁が30.1%増の21億7,900万円、鋳物素材が18.5%増の4億6,400万円となった。

この結果上期を加えた平成30年通期のバルブ生産高は、前年比較8.5%増(プラス21億6,400万円)の275億4,100万円となった。業種別では、水道用弁は前年比0.4%減の91億8,400万円となり、首都圏での工事発注量が昨年引き続き低調という影響もあり、生産高はほぼ横ばいの状況となった。産業用弁は、15.1%増の139億4,400万円と大幅に増加した。首都圏を中心とする再開発の動きや、一般企業の業績好転による工事発注増に加え、29年度に引き続いて30年度にも価格引上げが出来た事が増加の要因であった。船用弁は7.6%増の35億5,200万円と5年連続増加した。日本の造船所の手持ち工事は減少し、従来からの主要バルブ製品の生産高は減少しているものの、環境対策への法規制が厳しくなった

ことにより生産高は増加した。鋳物素材は、16.7%増の8億6,100万円とバルブ生産高の影響を受ける結果となった。

このように平成30年通期生産高は、大きく増加した。この1年を振り返ると、原材料の高騰により調達部は軒並み価格が上昇し、我々の業界も大幅な価格改正に理解を求めてきた。本年については、来年に東京オリピックが開催される事や、都市インフラの老朽化対策の予算増加もあり首都圏を中心に水道用弁、産業用弁の需要が活況になるよう期待したい。船用弁は、今年も造船所の手持ち工事が減少し、厳しい情勢は続くと思われる。業界全体としては、価格改正による増加分も反映させて前年度を上回る生産高を期待したいものである。

彦根バルブ生産高推移



新年会開催される

組合の新年会が1月18日午後6時より伊勢幾で30名出席のもと開催された。

中川理事長の挨拶では、平成30年の生産高結果についての発表と、今年は、兼ねてより検討を重ねてきた賛助会員制度を採り入れて活性化を図っていききたいとの話があった。

また、昨年度の滋賀県技能者表彰「おうみの名工」に認定された(株)マツバヤシ会長松林良蔵氏に組合より祝品が贈呈された。その後廣瀬一輝氏の乾杯音頭にて賑やかな宴席に移った。



物故者慰霊法要

昨年11月14日に物故者慰霊法要が明性寺にて18名が参列して営まれた。昨年3月17日に逝去された上田義治氏(株)上田製作所取締役会長)が合祀された。